上伊那教育会

第２５回授業研修会

令和２年１月１８日（土）上伊那教育会館　１３：３５～１７：００

テーマ　「子どもと創る授業」

講　師　松木　健一先生（福井大学副学長）

日　程　研修会第１部

実戦発表

テーマ　「ＧＷＴを活用した学級づくり～Ｃ生の成長に寄り添って～」

北原　和俊先生のご指導

研修会第２部

講演会　松木　健一先生

テーマ「子どもたちが自己肯定感を高めるために」

上伊那教育会　林　武司会長挨拶

皆さん、こんにちは。本日は、上伊那教育会の三大研修の一つである「授業研修会」に多くの皆さんお集まりいただき、誠にありがとうございます。この研修会ですが、委員の皆さんが、一年間をかけて、実際の授業を見たり、授業ＶＴＲを見返したりする中で、講師の先生にご指導いただきながら学び合い、その継続的な研修から得たものを、広く全会員に示していく「授業研修会」として、本年度７年目となりました。そのために、哲学研修や文学研修と同様に、委員の皆さんの研修に対してご助言やご指導をいただくよう、元伊那小学校長、元上伊那教育会長でもあります北原和俊先生をお願いしております。大変ご多用の中、上伊那各校の授業力向上のために快く講師をお受けいただいております。北原先生には、今までのご指導、並びに本日のご指導を賜りますが、どうぞよろしくお願いいたします。

新学習指導要領完全実施を目前に控え私たちの周りには「アクティブラーニング」「主体的対話的で深い学び」といった言葉が飛び交っております。しかし、私たちは、そういった言葉に振り回されるのではなく、まずは目の前の子どもたちをしっかりと見つめ、子どもたちと共に歩んで行くことが何よりも求められているはずです。子どもの学びと育ちはどうなのか、教師としてのあり様はこれでいいのか、一歩立ち止まって見つめ直すことが必要だと思うのです。そして、日々の授業が真に子どもの主体性や創造性を育むものとなっているか、改めて真剣に自己に問い、考えるときではないかと思います。

本年度も中心講師として、福井大学副学長の松木健一先生をお願いいたしました。詳しくは、この後研修部長よりご紹介がありますが、子どもの事実からから出発して、授業というものをどう考えたらよいのか、授業の充実とはどういうことなのか等、具体的にご指導いただけるものと思います。松木先生よろしくお願いいたします。最後になりますが、この一年間、授業研修の対象学級として主体的・積極的に協力していただきました、Ａ学校のＢ先生と生徒のみなさんに心より感謝申し上げます。委員の先生方、講師の北原先生と一緒に研究を進めつつ、本日に向けて準備をしていただき、本当にありがとうございました。ご参会の皆さまには、積極的な発言をもって本研究会を盛り上げていただきたいと存じます。本日の授業研修会が、明日からの授業の充実と今後の上伊那教育の発展につながりますことをご期待申し上げ、挨拶といたします。

◇第１部　実戦発表

「ＧＷＴを活用した学級づくり～Ｃ生の成長に寄り添って～」

自己主張が強く、自分の思い通りにならないことがあると泣き出したり、周囲からの問いかけには答えず、泣き続けたり教室を飛び出してしまうなど、他の生徒との関わりに大きな課題があるＣ生。反面、責任のある役職に積極的に立候補し、意欲的かつ責任感を強くもって行う姿も見られた。また、面倒見がよく困っている生徒や手助けが必要な生徒をサポートする姿も見られた。Ｃ生の様子から「自己主張が強い割に極端に自己肯定感が低いこと」「被害妄想が強く周りの人の言葉に過敏に反応してしまう」ことがわかってきた。

「Ｃ生にはよい面も多数あるが、自らの行動でその良さを潰してしまっていることが本人にも周りにも悪影響を与えていて、人間関係を難しくしている」と考えた。そこで「Ｃ生の良さを周りの生徒たちに理解してもらいながら、Ｃ生自身も成長していく中で、Ｃ生自身が抱える課題を克服し、さらに自己肯定感を高めていくよう働きかけていくこと」がＣ生の居場所（存在価値）をつくることや学級全体の人間関係の輪が深まることを考え学級経営をすすめてきた。

そこでＧＷＴやＳＧＥを取り入れた活動を継続したところ、被害妄想的な考えが徐々になくなり、Ｃ生の自己肯定感が高まってきた。それとともに相手を攻撃するような言動や、突然泣き出してしまうような姿も見られなくなってきた。また、相手の言葉を受けとけようとする姿も見られるようになった。

様々な手立ての中で特にＧＷＴとＳＧＥが大きな効果を発揮した理由として次のような良さが挙げられる。①「関わりを意図的に生み出すことができる」②「学級の仲間同士でお互いを認め合える」③「自己肯定感を高めることに繋がる」であり、それらの結果が学級の中で安心して活動・学習できるという雰囲気を作り、Ｃ生はもちろん、他の生徒の人源関係づくりにも影響を与えたと思われる。

活動を取り入れた初期の頃は、教師が活動のグループを意図的に組んだり、うまくコミュニケーションができない場面でサポートしたりしていた。しかし、生徒たちが活動に慣れてきて、人間関係のつながりも広がってくると、教師側で何か仕掛けることをしなくても、自分たちで工夫したり助け合ったりして活動が進められるように成長してきた。それはＧＷＴやＳＧＥの活動場面以外にも現れてきていて、教科の授業におけるグループ活動では相手がだれであっても意見をしっかりと聞いて尊重する姿や、休み時間の過ごし方では仲良しグループの輪を超えて交流する姿などが頻繁にみられるようになってきた。

このような生徒同士の関わり合いに変化が生まれてきたからこそ、今後の課題として、教科学習の中で生徒同士が協力したり関わったりする場面を大切にしていきたい。その中で更にお互いの良さを認め合い自己肯定感が高まる授業づくり、級友や教師など相手を尊重して取り組めるような授業づくりを教科の枠を超えて行っていきたい。

〔北原和俊先生のご指導〕

（１）子どもをみる、知る、理解する

まず対象となる子どもの事実をとらえる。担任の考察や願いが生まれる。一人ひとりをどう見て学級経営を行っていくか。すぐ対応を考えてしまうが、子どもの事実をとらえ考察していかなければならない。どういう場面でそうなるとか、なぜこうなのか。そこからどう支援していくか対処的な方法ではなく、成長に寄せた支援が必要になる。そこでＢ先生は①信頼関係の構築②学習スタイルの工夫（グループ活動やゲーム形式）を取り入れて実践した。

（２） Ｃ生に寄り添い成長を願っての取り組み

生活班の構成でＣ生をサポートできる生徒、Ｃ生がサポートする生徒を意図的に組む。Ｃ生の友達へのサポートの良さを周りの生徒に機会があるごとに伝える。生活記録に自己紹介を書くことがあり記入してこなかった。Ｂ先生がそばで「どんなことをしゃべろうかな」「好きなものは」など書く項目を聞きながら記入すると、見通しがもて、できたことを生活記録に書いてきた。社会（Ｂ先生の授業）の授業でＣ生が比較的自信をもっている歴史の単元で、早押しクイズ形式の復習学習やグループ学習を取り入れ、課題解決学習の授業スタイルを定着させた。

（３） ＧＷＴ（グループワークトレーニング）への取り組み

ＧＷＴの良さとして①グループ全員の力を集結して協力しないと、課題を達成できない。②他の人に正しくわかりやすく伝えるために、話す力・聞く力＝コミュニケーション力が養われる③ゲーム的要素が大きいので、どの生徒も意欲的に取り組める。授業の感想からはＣ生は「私一人ではできなかったけど、みんながやってくれたからできた。Ｄさんがあそこでよいことを言ってくれたからできた。ありがとう。」Ｄさんは「Ｃさんがメモをまとめてくれたおかげでできた。うれしかった。」と記している。

今後に期待したいこと

①ＧＷＴはＣ生が自己肯定感を高め、人間関係力を身につけていくための有効な方法の一つである。生活や授業でどう生きて働いているかをしっかり見極めていくことが大切である。（他の場面での般化）②子どもは集団との関わりで成長している。一人ひとりの子どもの成長は学級全体の成長に繋がっていくとする担任の考えを授業改善の中で進めて欲しい。③子どもの内からの育ちを、無限の可能性を信じ、常に子どもと正面から向き合う姿勢を続けて欲しい。

グループ討議の様子

◇第２部　ご講演

福井大学副学長　　松木　健一先生

ＧＷＴを活用した学級づくりＣ生の成長に寄り添って
「子どもたちが自己肯定感を高めること」について考える

自己肯定感をどうやって高めるか、テストができた場合、できなかった場合の原因帰属のさせ方を分類別に分析すると、テストができた子は自己肯定感が高く、テストができなかった子は自己肯定感が低くなり、到達結果（成果・他者比較）のフィードバックは現体制（自己肯定感の高低）を強化してしまう。

新学習指導要領の特徴としてコンテンツベース（知識・技能）からコンピテンシーベース（資質・能力）への転換になるが、幼児教育は一貫して資質・能力の育成を行ってきた。５領域を統合した遊びになっている。５領域とは「発意（問題に気づく）→構想（課題を設定する）→構築（段取りを組む）→遂行（実行）→省察（振り返り）」であり、能動的な活動はサイクル化して深化していく。それに対してこれまでの学校では効率よく知識・技能を習得させるために、学習プロセスを短絡化していた。そのため効率よく知識・技能を習得できる代わりに資質・能力を培うことが困難になった。

研修会を終えて（参加者感想）

＜Ｂ先生の発表について＞

・Ｃ生という一人の生徒を切り口にして、Ｂ先生の実践を紹介していただきました。とても素晴らしい内容で感動的でした。Ｂ先生がＣ生と信頼関係をつくり、そして他の生徒とＣ生がつながっていく。その過程が大変見事でした。Ｂ先生の信念と愛情を強く感じました。願いをもって子どもと関わっていくことの素晴らしさ、当然そこには苦労もたくさんあるのですが、「一歩踏み出す勇気」を大切にしていきたいと思います。

・GWT、SGEが目的ではなく手段としておこなうことは、子どもの実態のもと、軸を持った上での継続的な積み重ねによって成果につながるのだと感じました。

・自己肯定感の可能性を感じました。特性や困難さを抱える子、グレーゾーンの子を含め、Ｃ生を通して学級集団の大きな成長、つながりを感じました。

・生徒は教師によって育つだけでなく、生徒同士の中で成長していくことを学びました。教科担任として、担当する生徒と授業でたくさん関わっていく中で、授業を進めることばかりに目がいっていた自分はもっと１人の生徒と関わってその子の特性をつかんで必要な手立てを考えていかなければならないことに気付くことができました。

・Ｃ生に対するＢ先生の「そばにいる」「伝えたいことがあってもまずは話を聞く」「信じて待つ」等、温かい支援がＣ生にも学級の生徒にも伝わっていったと思いました。

＜グループ討議について＞

・自分が今感じている悩みや考えを話すことができ、具体的なアイディアや考え方を聞かせていただきました。来週の授業から取り入れてみたいと思います。

・１年目の先生から校長先生までと幅広くお考えをお聴きすることができ大変勉強になりました。
・フレッシュな先生方が、一生懸命授業に取り組んでいることが分かり自分の励みになりました。
・実践発表の後のグループ討議も大変勉強になりました。少人数で話しやすく、ためになるお話を多く教えていただけました。ありがとうございました。

＜北原先生のご指導について＞

・「支援はその場での対処法になってはいけない」という言葉にはっとさせられました。その子の今後を見据えた手立てを考えていきたいと思います。
・分かりやすく、一つ一つの価値や意味づけをして頂き、自校に生かせるところがたくさんありました。ありがとうございました。
・担任の心構えや、姿勢について大切なことを学ばせていただきました。子どもの可能性を信じぬくこと、正面から向き合う姿勢を貫くこと、一番根底にもっていなければならないと感じました。
・「落ち着いてくると本音が出る」という北原先生のお話に納得しました。先生たちは、すぐ対応を考えがちですが、まず事実をとらえ考察することが必要で、必ずしもすぐ対応するということではないことが認められているという力強い支えをいただいた気がします。
・子どもをみるということ、クラスを作るということ、授業を構成していくということ、日々の当たり前のことを見つめ直す機会となりました。自分の当たり前はどうなのか、子どもたちの感覚とずれていないのか、日々高めていかなければならないと思いました。授業に向かう自分の感覚を今後も磨いていきたいと思います。
・おまとめが分かりやすくて胸に落ちました。経験にあぐらをかかず、日々新しい視点をもって学び続けることの大切さを感じました。

＜松木先生のご講演について＞

・資質、能力を育むことがなぜ大切なのか、自己肯定感の育みに寄せてお話いただき、テストの出来、不出来ではできる子は努力を続けるし、できない子はますます努力しなくなる、だからプロセスのフィードバックが大切なんだということがよく分かりました。では、授業をどうするか、ということをもう一度考え直してみたいと思います
・自己肯定感も自己効力感も、自分だったらどのように学んでいくかを考えながらお聴きしました。確かに、できない時は外的要因で考えてしまい、できる時は内的要因で考えていました。Ｃ生のこともそうですが、理論的な考え方を理解した上で一人一人の子どもの自己肯定感を考えていけるようにしたいと思いました。
・自己肯定感から、今求められている能力の本質が少し具体的になりました。資質能力を育むためのプロセスにしても、GWT等の方法を教科の中で現実課題解決を作り上げること･･･。これからの教師は、授業方法の組み立て方を考える必要があると思いました。毎日の日常の授業で生きてくるものは何なのか、今までを見返しどんな授業づくりでこれらのことができるのかを振り返る機会となりました。
・今回の講演を開いて、自己肯定感って何だろうと、自分自身に問いた時に、ハッキリとした答えは思い浮かびませんでした。お話をお聞きするにつれて、どうすれば自己肯定感が高まるのか逆にどうしたら自己肯定感が低くなっていくのかを考え直していくことができました。自分たちがよかれと思って省いてきた目的までのプロセスがそれぞれの子どもにとっては、自己肯定感を高めていく方法になっていくということを聞いてはっとしました。

＜その他＞

・Ｂ先生、研修委員の先生方、大変お疲れ様でした。この研修事業は授業づくりであると当時に学級づくりでもあって、今特に学級をどう作っていくかが問われており、その中核を授業づくりに求める点で、大変意味のある取り組みになっていると思います。

・発表や講演を聞くだけではなく、グループで意見を述べ合う場も設定されていてよかったです。

・充実した研修の機会となりました。北原先生、松木先生のお話は自身に直接指導していただいている気持ちになりました。運営、そして研究、委員の皆様お疲れ様でした。

・とても有意義な研修会だと思います。そうであるからこそ、「さらに幅広い年代の先生方で学び合えるような研修会になるにはどうすればよいのだろうか。この研修会にもっと若い先生方が参加してもらえるようにするにはどうしたらよいのだろうか。」と考えさせられました。ぜひ、たくさんの方に参加していただきたい。